
特 集 国際教育フォーラム

中等教育改革の国際比較

— 中学・高校の学力とカリキュラムを考える —

2002（平成14）年度名古屋大学国際フォーラムのサテライト・フォーラムとして、大学院教育発達科学研究科と附属中等教育研究センター主催により、環太平洋6ヶ国より専門研究者を招いて「国際教育フォーラム：中等教育改革の国際比較—中学・高校の学力とカリキュラムを考える—」が6月20日に開かれた。前日の6月19日午後には、招待講演者の附属学校訪問があり、夕方にはレセプションが持たれた。

以下は、フォーラムの記録である。本紀要への講演収録を許可していただいた6人の方々にお礼申し上げる。英語による招待講演の日本語訳は、内田良（教育発達科学研究科博士課程）、松山有美（同）、羅潔（同博士前期課程）、伊藤奈賀子（今津研究室員）によるが、日本語により再提出された苅谷教授の論稿を除き翻訳の最終責任は編者にある。

なお、この国際教育フォーラム開催については、「教育学部21世紀人間発達学術研究基金」からも援助を得た。付記して謝意を表したい。

（編集：国際教育フォーラム実行委員会委員長 今津孝次郎）

〔趣旨と目的〕

青年前期の中・高校生の教育をめぐる論じられている、試験競争や学力低下、暴力非行あるいは国際化やカリキュラム改革、教師のためのIT教育といった諸問題は、世界各国に共通する諸課題である。そこで、この国際教育フォーラムでは、環太平洋地域の6カ国（韓国・中国・タイ・カナダ・アメリカ・日本）から著名な研究者を招き、各国の共通性と相違性について情報や経験、意見を相互に交換して、中等教育研究の発展をはかりつつ、日本の教育改革の方向性について検討する。

……………〔プログラム〕……………

〔日時〕 2002年6月20日（木）10：00～17：00

〔会場〕 名古屋大学 シンポジオン・ホール

（一般公開・入場無料・同時通訳付）

午前の部

10：00－10：15 開会式

10：15－12：00 各国報告

1. 中国：王英杰（北京師範大学教授）
「学校における子どもの学習負担の軽減：中国学校改革の永遠のテーマ」
2. 韓国：権大鳳（高麗大学教授）
「韓国中等教育の戦略的グローバル化」
3. タイ：パイトゥーン・シンララート（チュラロンコン大学教授）
「タイの中等教育：問題解決手段としての学校教育制度カリキュラムとその発展的展望」

12：00－13：30 休憩

午後の部

13：30－15：15 各国報告

4. カナダ：クライブ・ベック（トロント大学教育大学院教授）
「カナダの高等学校における生徒の参画」
5. 日本：苅谷剛彦（東京大学大学院教授）
「『試験地獄』からの脱出がもたらすアイロニー：教育改革と日本の中・高生の努力・学業成績の低下」
6. アメリカ：ノブオ・K・シマハラ（ラトガーズ大学名誉教授）
「アメリカにおけるチャータースクールと日本の学校改革への影響」

15：15－15：30 休憩

15：30－17：00 総合討論

17：00 閉会式

- 〔司 会〕 馬越 徹（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授）
高井次郎（名古屋大学大学院教育発達科学研究科助教授）
〔総合司会〕 石川久美（名古屋大学教育学部附属中・高等学校教諭）
仲田恵子（名古屋大学教育学部附属中・高等学校教諭）

〔招待講演者紹介〕（講演順・敬称略）

中国：王英杰 Yingjie Wang



北京師範大学国際比較教育研究所教授。教育学博士。スタンフォード大客員教授（1980－1982）、ベルモント大客員教授（1988－1989）、ハーバード大フルブライト研究員（1991－1992）。マカオ大教育学部長（1993－1995）、北京師範大学副総長（1995－1999）。
研究領域：比較教育及び教育政策分析。

<主要著作>

American Higher Education Reforms and Development, People's Education Press, 1993.

Implementing Basic Education in China, co-author, IIEP of UNESCO, 1994.

American Education, People's Education Press, 2001.

"Building the World-class University in a Developing Country", *Universals, Uniqueness, and Cooperation Asia Pacific Education Review*, Vol.2, No.2, 2001.

韓国：権大鳳 Dae-Bong Kwon



高麗大学教育学部教授。継続教育研究科長。高麗大学にて教育学学士号取得。
8年の実務経験を経て、アメリカ・ミシガン州立大学にて修士号及び博士号取得。
教育・人材開発省による研究事業に従事。労働省労働力開発委員会委員。
研究領域：生涯教育、教師教育、比較教育、および韓国におけるグローバル化。

<主要著作>

Education in Industry, Moonumsa, 1998.

Globalized Human Resources, Pakyoungsa, 1998.

Adult Teaching Methodology, Hakjisa, 1999.

Comparing US, UK, and Germany on Occupational Education and Workplace Continuing Education, Hakjisa, 2001.

Five Fields of Lifelong Education, Hakjisa, 2001.

タイ：パイトゥーン・シンララート Paitoon Sinlarat



チュラロンコン大学教育学部長。アメリカ・ピッツバーグ大学にて教育学博士号取得。SEAMEO 地域高等教育発達センター顧問（1998-2000）。

研究領域：教育哲学、教育の社会的発展、教師教育、高等教育。

<主要著作>

Need for Reinventing Thai Education System

For the leadership of Thai Teacher Education

Basic Policy for Education in Thailand

Higher Education in Thailand: Critical Perspectives, Text book and Academic Document Center, faculty of ducation, Chulalongkorn University.

カナダ：クライブ・ベック Clive Beck



トロント大学オンタリオ教育大学院 (OISE/UT) カリキュラム・教授＝学習
学科教授。同教育大学院主任。教授領域：反省的实践、学校改革、学校と社会に
関する教員養成コース。前・北アメリカ教育社会哲学会会長。日本、中国にて旅
行、講演の経験がある。

研究領域：コーホートに基づく調査を重視したプログラムに比重を置いた教師教
育。教師教育研究の一環として、学校訪問も行っている。

<主要著作>

Educational Philosophy and Theory, 1974.

Better Schools, 1990.

Learning to Live the Good Life, 1993.

日本：苜谷剛彦 Takehiko Kariya



東京大学大学院教育学研究科教授。1988年ノースウェスタン大学にて博士号取得
(社会学)。

研究領域：教育と社会階層、学校から労働の場への移行、教育改革。

<主要著作>

(日本語による著書は10冊以上にのぼる)

Mass-Education Society, 1995.

Education in Crisis and Stratified Japan, 2001.

The Illusion of Educational Reform, 2002.

(英語による論文は以下の雑誌に収録されている)

American Journal of Sociology

Sociology of Education

American Journal of Education

アメリカ：ノブオ・K・シマハラ（島原宣男） Nobuo K. Shimahara



ラトガース大学名誉教授。東京女学館大学副学長。1967年、ボストン大学にて Theodore Brameld の指導のもとで博士号取得。2001年末、大学院教育学研究科・人類学研究科教授を歴任した後、34年間勤務したラトガース大学を退官。2002年、ラトガース大学名誉教授。1985-87年、アメリカ教育省主席研究員。1989年、東京大学他客員教授。

研究領域：アメリカと日本の学校教育と教授に関する文化人類学的研究。

<主要著作>

Learning to Teach in Two Cultures: Japan and the United States, (with Sakai), 1995.

Politics of Classroom Life (editor and co-author), 1998.

Teaching in Japan: A Cultural Perspective, 2002.

